

ゼミ活動と資格取得への挑戦を通じて、
公認会計士への道を切り拓く。



有限責任 あずさ監査法人
東京事務所 金融統轄事業部

〔経済学部 2023 年卒業〕

私が公認会計士を目指したきっかけは、大学で受講した簿記の授業でした。会計帳簿の仕組みを学ぶ中で簿記の面白さを知り、会計士という仕事に興味を持つようになりました。現在は監査法人で、銀行やカード会社などの金融機関の監査業務に携わっています。大規模な法人の監査を通じて、経済の動きを身近に感じられることにやりがいを感じています。大学時代は国際政治経済学のゼミに所属し、仲間と議論を重ねながら研究に取り組みました。研究成果をゼミナール大会で発表し入賞できたことは大きな思い出です。また、公認会計士試験の勉強にも力を注ぎ、困難な状況の中でも諦めず努力を続けた結果、在学中に合格することができました。この経験は大きな自信となり、現在の仕事にも活かされています。立命館大学では、全国や世界から集まる多様な学生との出会いを通じて視野を広げることができました。さらに、資格取得や留学、国際交流などの支援制度も充実しています。皆さんもさまざまな挑戦や出会いを大切にしながら、自分らしい進路を切り拓いてください。

2019 年、経済学部に入學。同年 6 月、簿記 3 級、11 月、簿記 2 級を取得。2 回生から公認会計士試験の勉強を開始。2021 年 12 月、学内ゼミナール大会で、共著の論文が入賞する。2022 年、公認会計士試験に合格。2023 年 4 月、有限責任 あずさ監査法人に入社。金融統轄事業部で、金融機関やカード会社の監査に従事。

大学は、突き詰めたいことを
好奇心のまま深掘りできる場所。



株式会社村田製作所
車載営業部 販売 3 課

〔経済学部 2023 年卒業〕

大学は「これを突き詰めたい」と思った時に、好奇心のままどんどん深掘りできる場所だと思います。私の所属していたゼミは、興味・関心があるテーマをなんでも設定できたので、好奇心の幅を狭めることなく自由に研究ができました。3 回生の時にチームで計量経済学的分析と論文執筆を行い、成果を学外の研究発表会で報告したのもよい経験でした。このゼミで、親身に指導してくださる先生方や、意識が高く互いに刺激し合える友人と出会えたことは、私の大きな財産です。現在は、総合電子部品メーカーで、自動車部品メーカー向けの営業活動に従事しています。グローバルに事業を展開し、最先端の技術を多く有する企業で、社会に大きなインパクトを与える仕事に関われていることにやりがいを感じています。ゼミで培った、何事も好奇心を持って突き詰める姿勢が、現在急速に発展している車載アプリケーションの理解など、さまざまな業務にも役立っています。グローバルに活躍できる人材になるという目標に向け、目の前の業務に注力するとともに、言語習得にも力を入れたいと考えています。

2019 年、経済学部に入學。2023 年 4 月、株式会社村田製作所に入社。車載営業部で、自動車部品メーカー向けの営業職として、顧客の開発・購買部門との折衝や関係構築、海外拠点と連携したグローバル案件対応、市場・競合分析を踏まえた戦略立案に従事。自身の経験から、大学選びは「何を学び、どう成長したいか」が最も大切だと考えている。



経済学部の入口をのぞいてみよう

「経済学ってなんか難しそう」を「経済学部で学びたいな!」に変えることができるきっかけとなる、模擬講義動画を掲載しています。このパンフレットを読んでいたで、少しでも経済学に興味を持った方は、経済学の入口に一步踏み出してみませんか?

<https://www.ritsumeai.ac.jp/ec/lecture/>



入試情報

入試の最新情報は「立命館大学 入試情報サイト」をチェック

<https://admission.ritsumeai.ac.jp/>



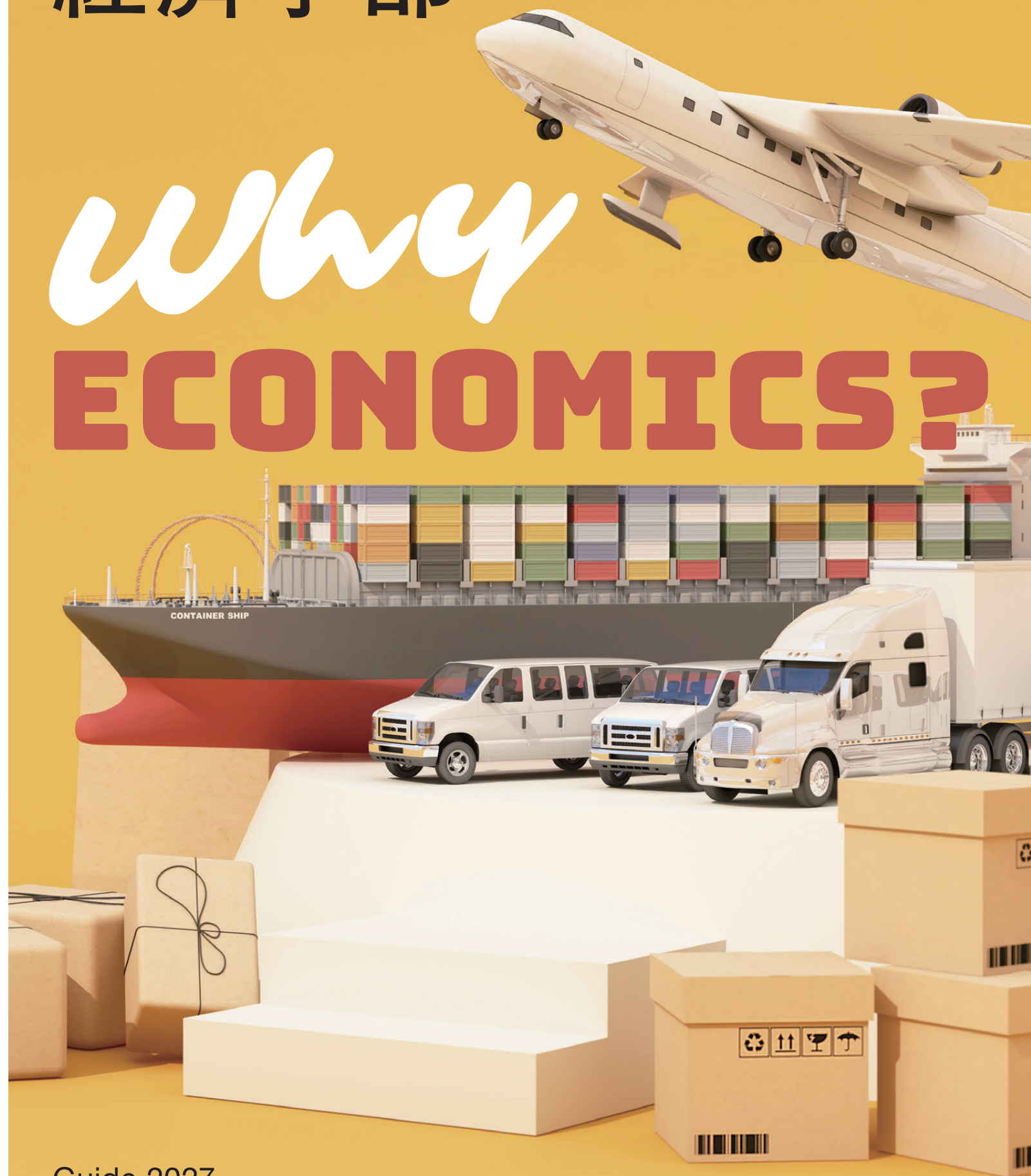
経済学部ホームページ

ホームページを一新しました

<https://www.ritsumeai.ac.jp/ec/>

立命館大学 経済学部

Why ECONOMICS?



高校に入試説明会や模擬授業に行くたびに感じてしまう「違和感」があります。

それは、多くの高校生みなさんが、経済って自分たちとは関係ない別世界のことだと思っている「ふし」があることです。多分、為替とか貿易とか株価とか景気とか、そういうのが経済って思っているのではないのでしょうか？ だから経済って、ニュースとかに出てくる話で、自分たちには関係ない、と思ってしまっているのではないのでしょうか？

実は、それは単なる思い込みなのです。確かに、為替、貿易、株価、景気っていうのは経済に関連することです。でもそれだけではないのです。みなさんが小さいころから過ごしてきた生活の中に、経済は息づいているのです。

たとえば、みなさんは小学生ぐらいから、月*円という形で、おこづかいをもらっているのではないのでしょうか？ もらった

金額の中で、食べ物や飲み物や文房具やコスメなんかを買っているのでは？ そのときに、自分にとって要らないものや、好きでないものを買ったりしないですよね？ とてもおこづかいではまかなえないような、高額なモノも買ったりしないはず。逆に、お小遣いの範囲内で手に入るモノの中で、欲しいモノを買っているのではないですか？

何を当たり前のことを書いてんの、と思っているかもしれません。しかし、このようなおこづかいのやりくりすることこそ、立派な経済活動なのです。経済は英語でEconomyといいますが、そもそも語源は「家計をやりくりすること」ですから。

だから、みなさんは小学生のころから、経済活動に「従事」しているのです。会社のさまざまな活動も、国の色々な活動も、結局は、おこづかいをやりくりすることと変わりません。会社では、手持ちの資金

の範囲内で、どんな商品をどれだけ作るかを考え、そのためにどれだけ人を雇って、どんな規模の工場を建てるかを考えます。国だって税金で集めた予算の範囲内で、どんなことにどれだけお金を使うかを決めています。そういう意味では、おこづかいの使い方を考えるみなさんと同じですよ、会社も国も。

さて、みなさんのおこづかいの話に戻りますね。みなさんはおこづかいの前借りという経験はありませんか？

どうしても欲しいものがあるけど、手持ちのお金では少し足りない、そこで来月分のおこづかいを前借りするって経験はありませんか？ 今月使えるお金が増える分、来月使えるお金は少なくなりますよね。こういう時って立て替えてもらうことが多いので、ちゃんと「*円前借りしました。」ってメモを残すように親御さんに言われたことはありますか？

これと同じことを国も行っているのを知っていますか？ 国は、今の国民のために使うお金を確保するため、将来の国民からお金を前借りしているのです。メモに当たる借入証を債券といいます。このような債券は国が発行しているので国債と呼ばれます。

みなさんはお年玉を親御さんや祖父母や親せきの人からもらっていると思います。そして、もらったお年玉を貯金しておくという人も多いと思います。貯金するってことは、今、手持ちのお金があるのにあえて使わないってことです。人によっては、親御さんが管理されている場合もあるでしょうね。

じゃあ貯金したお年玉はいつ使うのか、それは、推しのアイドルのコンサートチケットが当たったり、友達とテーマパークにいくことになったときではないでしょうか？ つまり、今、手持ちのお金を使って何かを買わずに、将来、使う機会があるとき

に使うわけです。おこづかいの前借りの逆パターンです。

これと同じことを国が行っています。おじいさんやおばあさんに聞いてみてください。「年金ってもらってる？」って。

おじいさんやおばあさんは、若いときに稼いだお金の一部を国に預けて、その時に使わずに、将来（老後）に使うためにとっておいています。これが年金です。お年玉を貯めて、いざという時に使うのと基本的には同じなのです。

このように、小学生のころからみなさんが経験していることと、企業や国が行っている経済活動って、根っこの部分は同じなのです。みなさんが、おこづかいを使ってモノを買ったり、前借りしたり、お年玉を貯金することと、政治経済の教科書の内容とが結びついていなかっただけなのです。

ただし、お金が絡んでいる経験だけが

経済ってわけではありません。経済活動って結局は意思決定なのです。なので、経済学は主に経済活動に関する意思決定の結果を研究する学問といっても間違いはありません。

グループワークや掃除当番などのチーム活動で、さぼるクラスメートをどのように対応したらよいのか？、クラスの委員長や生徒会長をどのような形で選出するのがよいのか？

といったものも、経済学と関係していて、研究がなされているのです。

どうでしょうか？ 自分たちの身近な経験が、経済活動そのものだということ、少なくとも経済活動と関連しているという事に納得してもらえたでしょうか？ 納得してくれて、もしほんのちょっとでも面白そうだった人は、ぜひ、人々の意思決定を分析する経済学部を、進路の一つの選択肢にしてくれば幸いです。



WHY ECONOMICS?

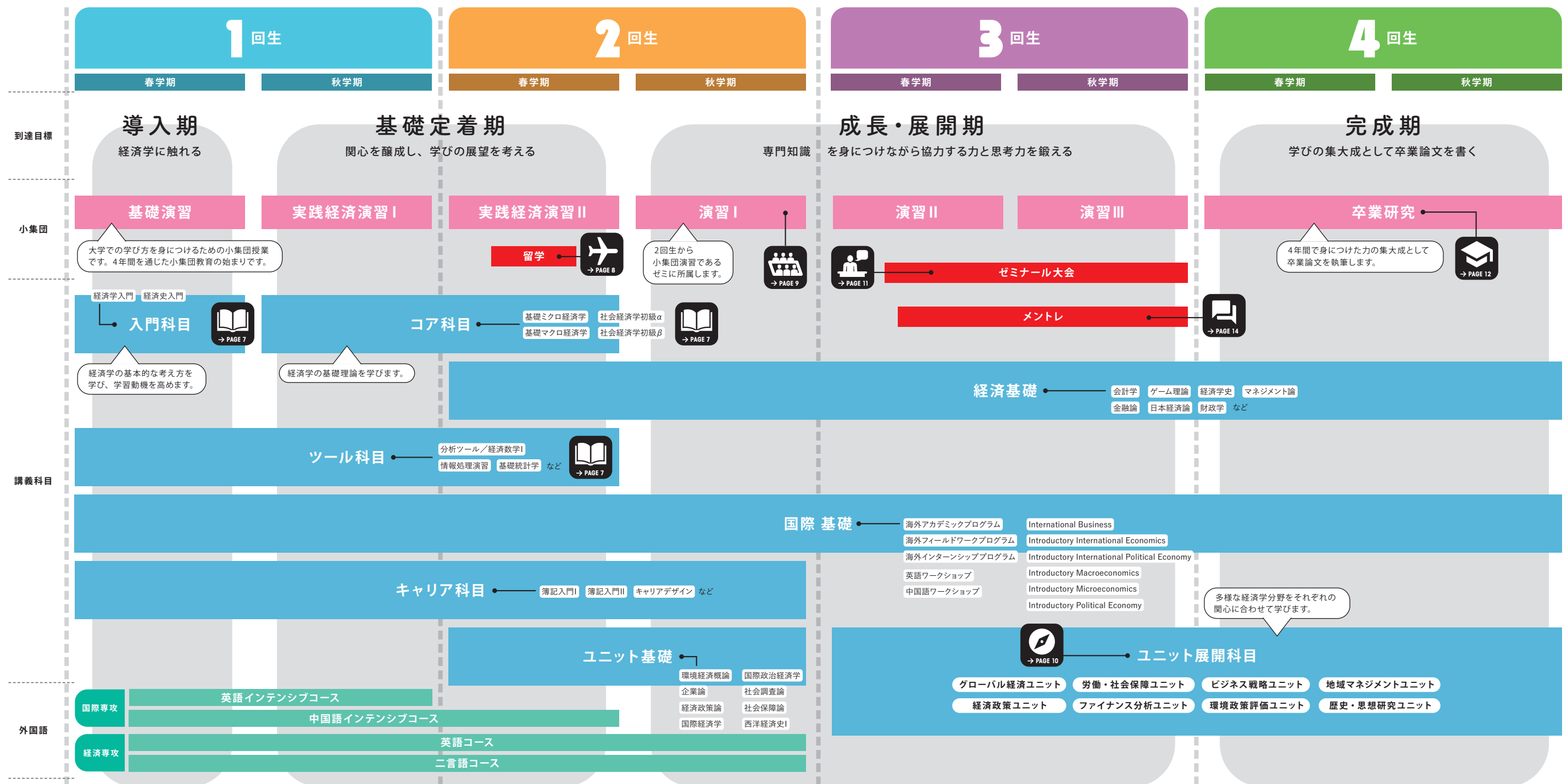
経済学部教員が、受験生のみなさんにとって身近なさまざまな謎「？」を経済学で読み解くエッセイを掲載していますので、ぜひご覧ください。



経済って、みなさんにとっても身近なコトなのです。

経済学部 の 4 年間

「多様性理解力」と「経済センス」を磨き、
国際社会で活躍できる力を培う。



大学生生活の基礎を作る

大学生生活にスムーズに移行できるよう、経済学部での学び方や経済学の基本的な考え方、外国語を集中的に学びます。小集団での授業を通し、大学生として主体的に学ぶ姿勢を身につけます。

国際専攻

Major in Global Studies

外国語

+

経済学
教育

+

海外経験

で、

世界で通用する
国際人を育成する。

国際化した経済・社会に対する洞察力・分析力を養うべく、独自の外国語プログラムを展開し、海外留学や海外フィールドワークの機会を提供します。外国語教育では英語もしくは中国語を選択し、入学直後から現地で使える外国語を集中的に学ぶことができます。

外国語コース

英語インテンシブコース	英語
中国語インテンシブコース	中国語＋英語

VOICE

授業がきっかけで公認会計士志望に

数学の基礎をしっかりと学ぶことができたのが「経済数学Ⅰ」です。数学の基礎知識は統計学やミクロ・マクロ経済学に欠かせません。また、経済理論なども数式を用いて表されることが多く、この授業によって理解が深まりました。「情報処理演習」は、Excelなどのパソコンソフトの基本的な使い方からデータ処理技術まで体系的に学ぶことができ、専門科目やゼミでデータ整理やレポート作成を行う際に大いに役立っています。

「Thematic Development」は、取り上げた社会問題について、グループでプレゼンテーションを行うものです。プレゼンテーション能力の向上に加え、社会問題に対してグループで解決策を模索する思考力も身につきました。「ICT English」は、リスニング・スピーキングの機会が多い実践的な授業で、英語のコミュニケーション力が養われました。授業でリスニングやスピーキングの機会が多く設けられていたため、短期留学でも自分の意見を相手にきちんと伝えることができ、学んだ英語力が身につけていることを実感しました。

「簿記入門」は、Ⅰ・Ⅱの継続受講で日商簿記2級レベルまで学べ、資格取得も目指せる科目です。簿記の知識はさまざまな場面で役立つものだと思います。私は、この授業を通して会計分野に興味を持ち、公認会計士試験に挑戦したいと考えるようになりました。



道盛 鈴菜 さん
経済学部3回生
大阪府 大阪桐蔭高等学校出身

経済専攻

Major in Economic Studies

理論

+

現実

+

実践

で、

現代社会の諸問題を
解決する人材を育成する。

社会生活の基盤となっている経済活動のメカニズムや市場の法則を解き明かし、より豊かな社会を創造していくために必要な考え方や手法の基礎を学びます。経済学を中心に法律や経営など他の社会科学や教養までを段階的かつ総合的に学ぶことができます。外国語学習では、英語コースもしくは二言語コースを選択し、外国語運用能力を高めます。

外国語コース

英語コース	英語
二言語コース	英語＋初修外国語*

*中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、朝鮮語から選択

VOICE

1回生で広く学び、好きな分野を見つけよう

経済学の学びの最初の一步となるのが「経済学入門」です。ミクロ・マクロ経済学と社会経済学の基礎を概観することで、経済学的な視点の土台が養われるとともに、経済学の全体像を見渡せるようになりました。私は今、ミクロ経済学のゼミに所属していますが、そのきっかけになったのが、ミクロ経済学を初めて本格的に学習する「基礎ミクロ経済学」でした。ゼミや専門科目では、回帰分析などの高度で難解なモデルや理論を扱いますが、それらの基にあるのが、「基礎ミクロ経済学」で習う消費者理論や企業理論などの基本概念です。1回生時にこの授業でミクロ経済学の面白さを知り、意欲的に学習したことで基礎知識がしっかり身につく、専門科目の学習やゼミでの研究を円滑に進めることができるようになりました。1回生時は広く学び、2回生からの専門科目で自分の専門分野を絞り、深く学ぶ。経済学部のカリキュラムはこうように設計されています。自分の選んだ専門分野の中の各領域の繋がりを意識して履修することによって基礎を繰り返し学ぶことができ、効果的に理解を深めることができたと考えています。現在の目標は3回生論文を書き上げることです。論文執筆とは、自らアンケートを設計・実施したり先行研究にあたることによってデータを集め、誰も知らない真実を発見するというプロセスだと思います。苦労もありますが、学んだ理論やモデルを活用し、研究のプロである先生の指導も仰ぎながら、納得できる形の論文に仕上げたいと考えています。



河井 朝飛 さん
経済学部3回生
東京都立八王子東高等学校出身

基礎演習

経済学部では、一日でも早く大学での学習に慣れってもらうために、基礎演習という少人数クラスを用意しています。このクラスでは、レポートや論文作成に必要なスキル、たとえば、図書館の使い方やアカデミックライティングを、共通教科書を用いつつ学べる機会が提供されています。加えて、各クラスには、オリター*と呼ばれる上回生がサポーターとして大学生活全般を支援しています。



実践経済演習Ⅰ

上記の「基礎演習」で培った成果を、2回生「実践経済演習Ⅱ」や「演習Ⅰ」(ゼミ)、3回生のユニットにおける系統履修につなげていく橋渡しとしての科目になります。具体的には、「アカデミックライティング」《統計分析》《英語・中国語ワークショップ》《PBL (Project Based Learning)》《文献輪読》《プレゼンテーション》《キャリア教育》など、授業メニューごとのクラスに分かれて履修を行います。



＊オリター制度とは？

立命館大学は、学生相互の支援「ピア・サポート」が盛んな大学です。中でも、オリター制度は、学習や学生生活の面から、先輩である上回生が新入生に支援を行う制度です。全国、そして世界から学生が集まる大学だからこそ、互いに学び合うことのできる立命館大学の伝統として根付いています。新入生の仲間作りのサポートを始め、学習や学生生活全般に関する相談に乗ってくれるので、スムーズに大学生活をスタートすることができます。



経済学入門

1回生になってまず受講するのが、経済学の基本的な考え方を学ぶ「経済学入門」です。この講義は、経済学の基本的な考え方を学ぶことを通じて、経済学の学問的発展に尽くした先人たちの偉業を知るとともに、現実の経済活動に興味を持てるようになることを目指すものです。



基礎ミクロ経済学・ 社会経済学初級α

経済学部生として、最低限身に付けなければならない経済学の基礎理論を系統的に学ぶ科目です。経済学部では、「コア科目」と呼ばれる授業であり、2回生からは「基礎マクロ経済学」「社会経済学初級β」の履修を行うことができます。



情報処理演習

情報処理演習は大学での学習を円滑に行うために必要となる情報処理関係の基礎知識を体系的に学び、経済統計分析の基礎知識を身につけるための授業です。実際にパソコンを操作する実習形式の授業で、パソコンの基本的な使い方やデータ処理技術を習得します。



基礎統計学

統計資料の利用は、私達が現実の経済社会を把握する上で、重要な手段です。それぞれの統計資料は固有の特徴をもっています。実際に接する統計資料によって何が得られるかを理解するためには、与えられた統計を眺めるだけでなく、統計の利用の重要性と限界を認識することが必要になります。本科目は、そういった新聞・雑誌・書籍等で用いられる統計資料の読み方と利用方法の基礎を学ぶことを目的とした授業です。



海外へ視野を広げよう

1回生で身につけた語学力を活かし、海外に視野を広げ、経験を積んでもらう時期です。経済学部では多様性を理解する力や国際感覚を身につけるための機会を多く用意しています。



経済学部生のための独自留学プログラム

海外アカデミックプログラム

海外の大学などで外国語を集中的に学ぶとともに、現地経済事情について、外国語で学ぶことができます。プログラムへの参加を通じて国際分野で通用するコミュニケーション能力や専門性を身につけます。

派遣先国	派遣先機関
オーストラリア	ホーソン・メルボルン英語学校
ニュージーランド	マッセイ大学
中国	大連外国語大学
中国	東北财经大学

海外フィールドワークプログラム

経済学部で学んだ知識を活用し、海外で調査・研究・発表に取り組みます。現地の人々と触れ合いながら、プログラムごとに設定されるテーマ（地域格差是正やツーリズム、環境と開発など）に関するフィールドワークに取り組みます。

派遣先国	派遣先機関
英国	JBIC（国際協力銀行）ほか
中国	上海对外经贸大学ほか
ラオス	ラオス国立大学ほか

海外インターンシッププログラム

日本企業・団体の海外オフィスや現地企業で実施するインターンシップです。多様な背景を持つ社員との就業体験や交流、世界の最前線のビジネス経験により、海外で働くことについて体験的に考えることができます。

派遣先国	派遣先機関
アラブ首長国連邦	日系・現地石油開発会社

*派遣先はすべて2026年度の予定です。

VOICE

何事にもチャレンジする意識が身につきました

オーストラリアのホーソン・メルボルン英語学校で1ヵ月間のプログラムに参加し、プレゼンテーションや就活体験、フィールドワークなどに取り組みました。現地のチョコレート工場訪問で企業戦略を、現地のスーパーで商習慣の違いを学ぶ機会もありました。多国籍の学生によるチーム活動では、当初は価値観の違いに戸惑う場面もありましたが、互いの多様な考え方を活かしたチームへと成長できたのは貴重な経験だったと感じています。バスケットボールを通して現地学生と親しく交流したことも印象に残っています。

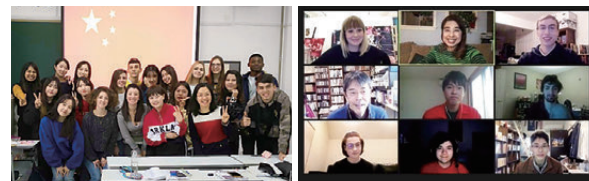
以前は、じっくり考えてから行動する慎重なタイプでしたが、留学後は、授業で先生に積極的に質問したり、課外の公務員養成プログラム「霞塾」に参加したりと、何事にもチャレンジする意識が身につきました。留学を通して自信を得たことで、就職活動でも可能性を狭めずに挑戦できるようになり、進路選択の幅が広がったと感じています。将来は国際的に活躍できる人材を目指し、英語によるコミュニケーション能力を高められる環境に積極的に挑戦したいと考えています。



大塚 健矢 さん
経済学部3回生
熊本県立玉名高等学校出身

G-ALPs イベント

G-ALPs (P.15 参照) の一環として、留学生との国際交流、様々な国際キャリアで活躍する方の講演などのイベントを多数開催しています。



〔過去の企画実績〕

- 国際協力の仕事「働く」「学ぶ」
- 海外勤務と国際機関への道：大学生活をどう過ごすか
- 気候変動に適応できるか
～カーボンニュートラルに向けた滋賀県の挑戦
- グローバル系コンサルファームの仕事
- グローバルキャリアについて考察しよう
- 世界からみた日本のヒューマンライツ：メディア・女性・入管・貧困
- 中国からの留学生との交流：多文化理解とコミュニケーション
- 留学体験報告会

ゼミで経済学を探検する



ゼミ活動を通して、自ら課題を発見し、主体的に問題解決に取り組む力を磨きます。

ゼミ紹介 #01 | 大川ゼミ

ビジネスを経済学で分析する

現実のビジネス活動は多種多様です。販売する商品の価格や数量の決定はもちろんのこと、商品の生産のための材料は自社内でまかなうのか、あるいはよそから調達するのか、商品の販売は自前で行うのか、それとも委託するのか、店舗はどのような場所に立地するのか、商品の販売促進のためにどのような広告宣伝を行うのか…など様々な意思決定に直面しています。同時に、新商品の研究開発や、海外への店舗展開のあり方の検討なども行わねばなりません。しかも、これらの決定に関しては、常に、ライバルの動向を気に掛けながら行わねばなりません。

うちのゼミでは、様々なビジネス活動における企業間の駆け引きに関して、ゲーム理論を用いて、分析を行っています。このような経済学の学問分野を産業組織論

といいます。ゼミ生はチームを組んで、自分たちの興味のある産業のいろいろな動向について、研究を行っています。特に、3回生時の研究成果は、経済学部内で開催されるゼミナール大会に参加して、発表することが通例です。

このような経験を通じて、卒業後も、いろいろな企業の動向を、ビジネスパーソンならば誰でも入手できる情報と学んだ理論を駆使して、推測することができる人材になれることを目指しています。



大川 隆夫 教授から
受験生のみなさんへ

ビジネス活動の分析って経営系の学部でしか学習できないわけではありません。しかも経済学部では、単にビジネス活動の現状分析だけにとどまらず、そのような活動が世のため人のためになっているのかどうか、という点も分析できます。加えて、本学の経済学部では、ビジネス活動に関する分析を理論面だけでなく、実際に実験を行うことによって検証することも可能です。このように、経済学部での学びを通じて、ビジネスを多方面から分析できる機会を持つことができます。



ゼミ紹介 #02 | 栗田ゼミ

地域・自治体の活性化を国内外比較から考える

日本では近年、多くの地域が元気がないと評価されています。したがって、地域を元気にしようということで、地域活性化あるいは地方創生といった用語が用いられています。様々な情報があふれ、国内外の往来も盛んな昨今、いろいろなアイデアが出てもおかしくありません。それでも地域の状況が厳しいほど、なかなか成果がでません。なぜでしょうか。

「地域」は地理・地形に限らず、社会や経済あるいは生活や生産など様々な要素からなります。また農業や製造業、観光業など様々な産業がありえます。住民は何が問題であるのかを丁寧に整理した方が良いでしょう。またどのような元気な姿を目指し、いかな

る個性や特徴をみがいしていくか、誰がどのような方法で展開していくかを、少しずつ仲間を増やして協議していく必要があります。

ゼミでは出身地以外の様々な地域にでかけ、若手リーダーや事業主、市町村職員などと交流しながら実態を調査します。ゼミ生はそれぞれの研究テーマをもって、ゼミ生間で議論しながら、地域の活性化を重層的、総合的に分析するノウハウを学びます。他方、お世話になった方々に研究成果を還元し、活性化事業のお手伝いもします。まさに「フルコース」です。これぞゼミといえます。



栗田 但馬 教授から
受験生のみなさんへ

皆さんは既に地域活性化の当事者、すなわち担い手です。大学では地域の諸問題の把握から出発し、様々な分析・調査方法を学びながら、一見細かいと思われるような研究テーマと、人口対策といったような大きな研究テーマを行き来することになります。住民の笑顔があふれる地域にしたいと思いませんか。地域で皆さんと一緒に活動できることを楽しみにしています。

プロフェッショナルを目指す

多様な経済学分野を自らの関心に合わせて、深く学び、専門知識や論理的思考力を身につけます。



ユニット制 科目をパッケージ化して関心分野を体系的に学ぶ

関連性を持つ科目をパッケージ化したユニットで学び、自らの学びをデザインします。ゼミナールでの学修・研究と連動させながら学ぶことができます。研究テーマによっては、複数のユニットにまたがる学びが望ましい場合もあります。

歴史・思想研究ユニット

現代から将来を見渡す俯瞰的な視座を身に付けるため、経済史、経済学史を学び、歴史的な事例や経済学論争の考察を通じ、現代経済の諸問題の根源を考察します。

社会思想史	東洋経済史Ⅰ
西洋経済史Ⅱ	東洋経済史Ⅱ



グローバル経済ユニット

国際間の経済関係と各国経済の多様性を理解し、グローバルな視野に立って国際的諸課題を考察し、解決提案できる力を養います。

アメリカ経済論	国際貿易論
国際開発プロジェクト・マネジメント	多国籍企業論



経済政策ユニット

経済政策に関わる理論、制度を学ぶとともに、データ分析や事例研究を通じ日本経済が抱える様々な問題の本質を洞察する力を養い、俯瞰的かつ理論的な視点から政策課題の解決策を提案できる力を養います。

経済成長論	貨幣・信用論
公共経済学	地方財政論



地域マネジメントユニット

市場経済では解決が難しい地域・コミュニティの課題について深く知るとともに、国土形成計画から地域振興まで、総合的視点に立った課題の解決方法を学びます。

観光経済論	都市・地域マネジメント
地域経済学	農業経済論



WHY ECONOMICS?



それぞれのユニットを
身近な「なぜ?」とともに紹介

労働・社会保障ユニット

人口減少と少子化・高齢化が日本社会にもたらす影響を踏まえながら、労働政策や医療政策、介護政策、年金政策などの社会政策に関わる諸課題を分析し、その解決手法について考察します。

医療経済論	地域福祉論
企業と雇用システム	労働経済論



環境政策評価ユニット

環境・公害問題の科学的な理解に加え、環境の経済社会的価値や環境政策の効果を評価するための分析手法の修得など、政府の環境・資源政策や企業の環境マネジメントに活用できる文理総合的な学びを行います。

環境経済学	環境法
環境経済評価論	食糧経済論



ファイナンス分析ユニット

資金の調達・運用・投資戦略などの理論を理解するとともに、金融市場の制度や政策に関する知識、企業財務や金融市場を分析する技術など、金融に関わる業務に必要な知識と技術を学びます。

金融市場分析実習	コーポレートファイナンス
行動経済学	リスク管理論



ビジネス戦略ユニット

経済学的視点から企業の意思決定理論を学ぶとともに、マネジメント、会計、法律などの多様な観点から経営戦略、企業組織をめぐる諸課題を分析します。

企業税務論	産業組織論
財務諸表論	組織と制度の経済学



ゼミナール大会 理論を身につけ、実践を通して研究成果を発表する

学生同士の知識の深め合いや研究意識の向上、また学部全体での研究力の向上を目標に、毎年12月に開催される学術イベントです。毎年100チーム以上、約400名を超える学生が参加します。日ごろの調査・研究の成果を論文としてまとめ、その内容についてプレゼンテーションと合わせてコンテスト形式で評価されます。それぞれの発

表の後には質疑応答の時間も設けられ、会場は熱気あふれた雰囲気になります。自らが設定したテーマについて徹底的に研究し、多くの人の前で成果を報告することにより、社会で役立つ問題発見・分析・解決の能力、プレゼンテーション能力を養います。



STEP 1：分科会（予選）

100チーム以上が参加し
調査・研究成果を競います



STEP 2：優秀者発表会

選ばれた約10チームが
プレゼンテーションを披露します



STEP 3：表彰式

調査・研究力、プレゼンテーション力に
秀でた発表が選ばれます

過去ゼミナール大会テーマ例

メンズコスメ市場での資生堂の撤退とKOSEの参入
観光農園における収穫体験による地域関心度の変化
森林環境税及び森林環境譲与税について
カフェ市場におけるドトールとスタバの戦略
震災と所得税～能登半島地震より考える
現代社会における商社の意義再考

ファストファッションと環境問題
MBTIと消費行動の関係
新スタジアム新設時の経済効果
労働人口比率の向上に向けた施策考察
中小製造業の生産性向上と外国人労働者の役割
地方から都市への人材流出による地域格差の現状と是正

発展途上国におけるFTAとサプライチェーン効率化
野球における先攻後攻の勝敗への影響
ソーシャルゲームにおける長期的継続利用意向の決定要因
地方と都市におけるオーケストラ公演の経済波及効果
ふるさと納税制度による都市部の過剰な税収移転問題
シェアリングエコノミー等新分野の経済取引と所得税

VOICE

どんな経験も学びも
無駄にはならないと
再認識することができた



三浦 芽依 さん
経済学部4年生
広島県 ノートルダム清心高等学校出身

ゼミナール大会に向けて私たちが取り組んだテーマは「森林環境譲与税の使途と森林管理に携わる複数の主体との関係」。2024年から課されるようになった森林環境税について調べる中で、これを財源として市町村に配分される森林環境譲与税というものがあると知り、実際に放置森林管理など社会問題の解決にうまく活用されているのかを検証したいと考えたのです。「行政が森林管理を行なっている市町村」と「民間の企業が連携して森林管理を行なっている市町村」の両方の活用データを収集し、森林管理に対して税金からどれだけの費用が賄われているのか、重回帰分析を用いて解析を行いました。

当初は「木材×貿易」で研究を行おうとしましたが、うまくいかなかったため「木材×森林管理」に焦点を変える

ことになりました。研究テーマを変更しても、それまでの積み重ねを引き継いだ点も多く、どんな経験も学びも無駄にはならないと感じました。すべての授業に真面目に取り組むことがスキルアップにつながるということを改めて認識できたことは成長につながったと思います。

大会準備では、研究内容をまったく知らない人に理解してもらうため、改めて研究を深掘りして焦点を絞り込みました。プレゼンのジェスチャーなども工夫し、本番では堂々と発表を行い、質問にも的確に答えられました。

ゼミナール大会出場を通して、仲間と共にプロジェクトを遂行する楽しさを知ることができたのも大きな成果です。将来は政策分析に関わる仕事に就きたいと考え、進路をより広げるために言語や経済理論を学習しています。

培った力で未来へ羽ばたく

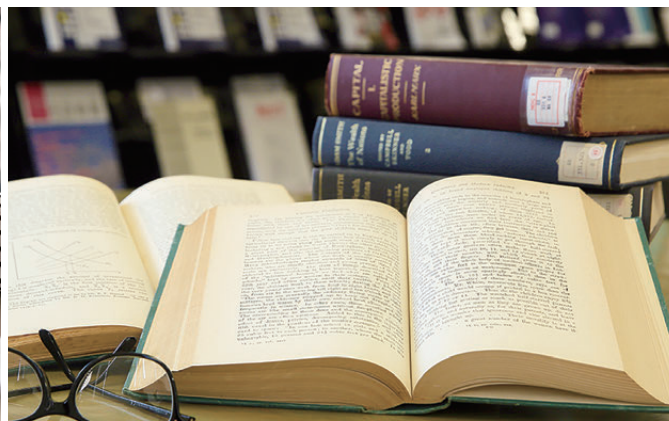
4年間の学びの集大成として、卒業論文を執筆し、社会に羽ばたく準備を行います。



卒業研究

4年間で身につけた力の集大成

卒業研究では、みなさんの興味関心に沿ったテーマを選定し、卒業論文を作成していきます。洞察力を用いて、より良い問いを立てて、テーマを選定し、俯瞰力を用いて、論文の構成を決定します。そして、分析力を用いて、論文の内容を緻密にし、論理・表現力を用いて、説得力のある文章を執筆します。このように、4つの力の集大成が卒業論文なのです。



経済学部で身につく4つの力

「自ら問いを立てて分析できる」人になってほしい。これが経済学部教員の思いです。そのための機会となるカリキュラムを用意しました。もちろん、カリキュラムの学習だけではなく、大学生活を送る中での様々な体験も、積極的に取り組めば、そのような人になるための一助になるでしょう。このような人になるためには、どのような力をつければよいのでしょうか？それは次に示す四つの力です。

分析力

経済学独自のものの見方や考え方、統計分析のためのスキルを駆使して、緻密に考えることができる力

論理力

分析力に基づいて、物事を客観的にみることができる、加えて理屈で物事を考えることができる力

俯瞰力

論理力が身につくことで、ある事象と別の事象とは、ある着眼点から似ているのではないかという風に、物事を大づかみにとらえることができる力

洞察力

俯瞰力を手に入れることで、物事の本質を見抜くことができる力、ひいては、今後どのようになるかを先読みすることができる力

3回生の段階では、分析力や論理力は、そこそこ身にはついているものの、俯瞰力や洞察力は身に付き始めているレベルだと思います。そこで、それらの力を定着するために必要なものが卒業論文です。

卒業論文の執筆には、上記の4つの力が必要不可欠です。卒業論文の作成に試行錯誤する経験を通じて、分析力や論理力を確かなものにし、俯瞰力と洞察力を身に付けて社会へと巣立って行ってほしいと願っています。

VOICE

授業やゼミの共同研究、課外活動を通して社会に必要な力を身につけた

山田 恵那 さん
経済学部4回生
石川県立金沢二水高等学校出身

3回生のゼミでは、FTAとサプライチェーンの関係性をテーマとした共同研究に取り組みました。先行研究の整理や貿易データの探索に加え、複数の分析手法を用いて結果を比較・考察する中で、物事を根拠に基づいて読み解く「分析力」を培いました。また、研究を進める際には常に「なぜその結果になるのか」「どのような要因が考えられるのか」を意識し、自分たちの考察を論理的に説明することを心掛けたことで、「論理力」も養われました。さらに、京都学のレポート作成では、実際に街を歩き、観察を通して見つけた課題について、その背景や要因を自分なりに整理・検証しました。現象だけでなく、その背後にある構造まで考える経験を通して、物事を論理的に捉える姿勢が身についたと感じています。

共同研究では、データ分析だけでなく、国や地域ごとの貿易障壁を理解するために条文分析や事例分析も取り入れました。多様な視点から検証を重ねる中で、FTAの効果を左右する条件や要因を探り、本質的な課題を捉える「洞察力」を磨くことができました。

また、経済や地域課題に関する授業では、一つのテーマを行政・企業・住民など異なる立場から考察する機会が多くありました。加えて、定期的に参加している障害福祉作業所でのボランティア活動では、利用者や職員の動き、現場全体の状況を把握しながら行動することを意識してきました。こうした



経験を通して、多角的な視点から全体像を捉える「俯瞰力」を培いました。卒業研究では、「環境規制が貿易にどのような影響を与えるか」をテーマに取り組む予定です。環境規制は企業活動や貿易の制約となる側面を持つ一方で、技術革新や効率化を促す可能性もあります。これまで培った4つの力を活かし、多角的な視点から環境規制と経済活動の関係を探究していきたいと考えています。

将来の目標は、多様な立場の人、地域や社会を支えられる人材になることです。そのため、ゼミの課題に真摯に取り組む、多角的に分析する力を伸ばすとともに、ボランティア活動でも一人ひとりに合わせたかわり方を意識し、相手の気持ちを汲み取る力やコミュニケーション能力を磨くよう努めています。

一つの情報や見解に依拠せず、多数の主張を総合して、自分の意見を持てるようになった

石橋 權 さん
経済学部4回生
福岡県九州産業大学付属九州産業高等学校出身



「経済成長論」や「環境政策」の授業で学んだグラフの読み取り方や、複数のデータを連携させて新しい事実を見出すこと、それを数学的に証明することを通して「分析力」がつけました。ニュースなどで報じられる出来事を、授業で学んだ用語や定理を使って分析することによって、より深く理解できるようになった時も「分析力」がついたと感じます。

「日本経済史」や「アメリカ経済論」の授業で学んださまざまな考えや主張について、なぜその結論に至ったかを考えることで「論理力」がつけました。その結果、人と対話する際に、相手の話に納得できなくても感情的にならず、その結論が導き出された過程を考察し、どういう点が自分の考え方と違うのかを論理的に考えられるようになったと思います。

「環境経営論」の授業で、ある出来事に対して、一方からだけではなく、複数の視点から見ることによって、何が正しくて、何が間違っているのかを考える多角的な物事の見方を学び、「俯瞰力」を身につけることができました。日常的に見聞きする事件やニュースに対しても、一つのメディアの流す情報や見解だけに依拠するのではなく、さまざまな記事や主張を事実と照らして総合的に検討し、自分なりの意見を持つことができるようになりました。

「農業経済論」で、日本だけではなく世界の国々の農業政策について学び、それぞれの政策がどのような意図をもって行われたものなのか、それがどのような結果を伴うかなどについて考察することを通して、「洞察力」が養われました。人と話すときにも、その人の表情や話し方からどのようなことを考えているのかを想像し、その後何をしようとしているかまで考えを及ぼすことができるようになりました。

現在、「宗教が政治・経済に与える影響」をテーマに卒業論文を執筆中です。人々の行動原理を分析し、一人ひとりの宗教への考え方やとらえ方が、国の将来に対してどのような影響をもたらすのか、自分なりに考えて結論を出したいと考えています。

希望の進路を切り拓く

経済学部ではキャリア教育に注力しており、学生がそれぞれの希望の進路に進むための支援を行っています。



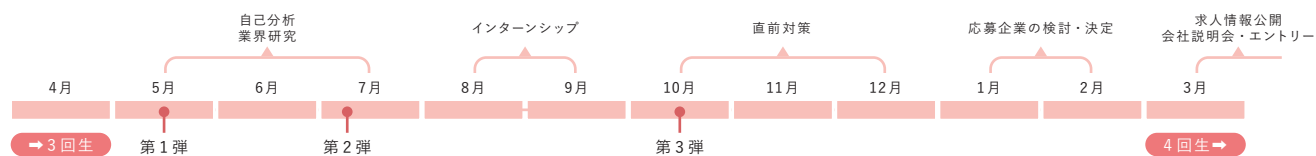
メントレ

経済学部就職活動応援企画

社会の第一線で活躍する卒業生と協力し、学生の就職活動を組織的に支援します。

「自己の価値を社会の中でどう活かすか」について考える経済学部独自のキャリア企画であり、年間を通して実施しています。とくに、秋に開催されるOBOG面接会では、経済学部同窓会の支援のもと、2日間にわたって全国から多数の卒業生を招き、自己分析の深掘り、エントリーシートの添削、面接の指導を行います。先輩だからこそできる熱血指導により、参加者は就職活動において抜群の成果をあげています。社会の第一線で活躍する卒業生と協力し、学生の就職活動を組織的に支援しています。

年間スケジュール(予定)



メントレ第1弾

学びと就職活動 編



学びと就職活動の関係性や自己分析の仕方について学びます。

メントレ第2弾

学びと自己分析 編



大学での学修という視点から、ES(エントリーシート)の書き方について学びます。

メントレ第3弾

学びと実践 編(OBOG面接会)



多数の卒業生を招き、2日間にわたって模擬面接や、ES(エントリーシート)作成の指導を行ってまいります。

※過年度の例です。実施回数・内容は年度によって異なります。

VOICE

実践形式の面接練習で
具体的な助言がもらえた



松田 菜花 さん
経済学部4回生
滋賀県立膳所高等学校出身

就職活動の進め方が分からず不安だったことから、正確な情報を得たいと考えてメントレに参加しました。「学びと就職活動編」で、就職活動の流れを学べたので、早期から始まる動きにも遅れをとることなく対応することができました。「学びと自己分析編」では、自己分析の方法、モチベーショングラフや自分史の書き方などを知ることができました。特に役立ったのはエントリーシートのレクチャーです。ポイントを押さえた解説によって、書くべき内容をしっかりつかむことができました。「学びと実践準備編」では、先輩からエントリーシートの添削指導を受け、自分の考えや行動を中心に書くように修正したとこ

ろ、通過率が格段に良くなりました。また、面接練習では社会人の方と実践形式の練習を重ね、具体的なアドバイスももらったことが、よい結果につながりました。就職活動の準備や対策法を学べたことに加え、先輩に自分史を深掘りしてもらったり、実際の働き方を聞いて、自分がどのような社会人になりたいのかを深く考えることができたのもよかったと思います。内定先は、自分のなりたいたい社会人像に近い社員が多く、目標を達成するのに最適な環境が整っていると感じた企業です。お客様や職場の人に信頼され、頼ってもらえる人材になりたいと思っています。

専門キャリアプログラム

高度な専門性を求められる分野に関して、専門的キャリアの意識付けを行うために、財務・会計プログラムを設置しています。学びの集団を形成し、難関試験に挑む学生を支援します。

財務・会計プログラム

公認会計士や税理士、国税専門官、企業の財務担当職など高度な専門職を目指す人材を養成するプログラムです。簿記3級・2級の資格取得を目指す正課科目を用意しており、会計系難関資格取得へのステップアップも可能です。また、税務・会計のスペシャリストを養成する大学院経済学研究科「税理・財務コース」への進学の手も選択肢となります。

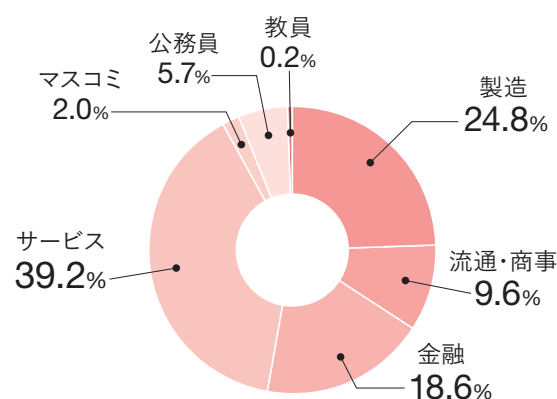
体系的な国際教育 G-ALPs

G-ALPs (Global and Active Learning Programs) はグローバルな視野を持って自らの目標(=峰)に挑戦する学生を支援する経済学部の国際教育プログラムです。正課授業では、外国語科目はもちろんのこと、経済学の専門科目についても英語や中国語で学べるカリキュラムを用意しています。さらに、経済学部独自の海外留学プログラムについても充実化をはかっています。また、正課外の取り組みとしては英語ディベートや国際的なキャリアを意識した講演会、オンラインでの国際交流等を予定しており、正課内外において学生を支援します。



就職状況

2025年度卒業生 業種別進路決定状況



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎端数処理の関係で100%にならない場合があります。

2025年度大学院進学先例

立命館大学大学院 京都大学大学院 名古屋大学大学院
関西学院大学大学院 神戸大学大学院 兵庫県立大学大学院 など

2025年度公務員決定者数

国家公務員: 11名 (国家公務員総合職(独立行政法人 造幣局)、一般職(法務省、経済産業省、総務省、厚生労働省など)、財務専門官など)
地方公務員: 24名 (大阪府、京都府、愛知県、大阪市、京都市、堺市、守山市など)

2025年度公認会計士合格者数

18名(校友等含む) / 55名 (立命館大学: 校友等含む) *全国6位 西日本2位

2025年度卒業生 進路・就職先一例(50音順)

アクセンチュア(株)	(株)JT B	日本生命保険相互会社	(株)三井住友銀行
(株)NTTデータグループ・(株)NTTデータ	双日(株)	日本電気(株)(NEC)	三井住友信託銀行(株)
オムロン(株)	ダイキン工業(株)	日本ハム(株)	山崎製パン(株)
川崎重工業(株)	中外製薬(株)	日本郵便(株)(日本郵政グループ)	ユニ・チャーム(株)
関西電力(株)	(株)デンソー	任天堂(株)	(株)読売新聞東京本社
(株)キーエンス	東京エレクトロン(株)	野村證券(株)	国家公務員総合職(独立行政法人 造幣局)
(株)クボタ	東京海上日動火災保険(株)	パナソニック(株)	国家公務員一般職(法務省)
(株)コーエーテクモゲームス	有限責任監査法人トーマツ	富士通(株)	国家公務員一般職(経済産業省)
KDDI(株)	トヨタ自動車(株)	本田技研工業(株)	京都市役所
清水建設(株)	(株)日本航空	(株)みずほフィナンシャルグループ	大阪府